



日本赤十字社

武蔵野赤十字病院

No.52

2017年 冬

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌

Eye むさしの

頼れる病院をめざします



(左から嘉和加副院長、原口事務部長、若林副院長兼看護部長、泉院長、安藤副院長、山崎副院長)

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくらします



集中ケア認定看護師

重症患者さんのサポートを全力で行っています

白須 香南子

武蔵野赤十字病院は救急車をできるだけ受け入れる体制をとっている高度急性期病院です。急性または重症な患者さんを受け入れる集中治療室3つ(救命救急センター ICU・HCU、GICU、SCU)合計45床あり、4人の集中ケア認定看護師がいます。病床数に対する集中ケア認定看護師の割合は国内トップクラスです。

近年、さらなる医療の高度化、救命医療の発展により、集中治療における看護師の専門性が求められてきており、専門的な看護の提供が行えるよう日々奮闘しています。

集中治療室に入室する患者さんは重症疾患であり、多くの器械や点滴に囲まれています。そのような患者さんに安全な医療を提供し、回復を促進できるように援助を行うことや共に辛い状況にあるご家族に対しても、その時を乗り越えられるようにサポートを行うことが私たちの役割です。

例えば、人工呼吸器装着中の患者さんに対しては、呼吸ケアを行うことで早期に人工呼吸器を離脱できるようサポートします。さらに症状や治療から安静が必要なこともあります。そのような状況の中でも、状態の評価を行い、ベッド上でできるリハビリテーションを実施したり、早期から介入を行うことで、回復への援助や合併症の予防、その後の身体機能低下を予防できるようにサポートしています。

また、院内の重症患者管理、緊急時の対応など院内教育にも積極的に取り組み、急性期病院の看護の発展のための活動を行っています。



お知らせ

講座名	糖尿病教室	心臓病教室	プレおばあちゃん教室
開催日	2/4、3/4	1/25、3/22	1/18、3/15
時間	13:00~15:00	14:00~15:00	13:00~15:00
場所	三番館1階	山崎記念講堂	母子保健相談室
受講料	500円	無料	3,000円/1人
申込先	不要	不要	産婦人科外来
問合せ先	医療社会事業課	循環器外来	産婦人科外来

詳しくは当院ホームページ→病院案内→「公開講座・イベント」でご紹介しています。





2020年3月 東工宇

新年のごあいさつ



院長 泉 並木

あけましておめでとうございます。

震災など自然災害に悩まされた2016年から2017年を迎え、今年こそよい年にしたいと考えておられる方が多いと存じます。東京オリンピック・パラリンピックにむけて明るい話題が多い年になればと期待しております。

武蔵野赤十字病院では、2020年の新病棟建築にむけて本格的に動き出す年になりました。今後、地域においてそれぞれの病院がどの役割を担うかについて明確にしていくための話し合いが進んでいくと思われまふ。当院は高度急性期を担う病院として全室個室とし、休日や夜間の入院をいつでも受け入れられる体制を強化したいと考えています。救急車で受診される患者さんなるべく多く受け入れるのが、当院の使命だと思います。がんや心臓・脳神経などのカテーテル治療、整形外科の手術など救急や周産期など地域で期待される役割を果たせるように設備を整備してまいります。同時に、皆様の日頃の健康管理に役立てることも取り組んでいきたいと思ひます。1億総活躍社会になれば、日頃の健康管理が重要でふ。脳神経系など専門ドックを中心とした取り組みもすすめてまいりたいと思ひます。皆様のご意見を聞かせていただければ幸いです。

副院長・看護部長 若林 稲美



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、オリンピックイヤーで、リオデジャネイロでのアスリートの活躍が賑やかに報道されてきました。今回は今まで以上に、パラリンピックの話題が多く取り上げられていたように思ひます。事故や病気を乗り越えて活躍するアスリートたちの姿に、オリンピックにも劣らない、多くの感動がありました。

健康でいることはもちろん私たち皆の願ひです。しかし事故や病気に遭遇しても、自分らしく生きていきたいと改めて思ひました。

当院は地域の皆さまの安心できる医療機関として、近隣の病医院と連携して活動しています。

健康に不安を感じた時にも、病とうまく付き合っていくかなければならなくなった時にも、この地域で生活し続けていただけるよう、皆様を支援していきたいと考えております。私たちが看護師は「病気の身体とともに、どのように生活していくのがよいか、その人らしいか」を皆さんと一緒に考え、コーディネートしていくことが役割だと思ひます。心配なことや気にかかることがありましたら、いつでもお気軽に声を掛けていただければ、と思ひます。本年もよろしくお願ひします。

消化器科の紹介



消化器科部長 黒崎 雅之

消化器科が担当する疾患は、食道、胃、大腸などの消化管や胆嚢、膵臓、肝臓などの多くの臓器に発生した幅広い病気でふ。当院では、消化器疾患についての専門医の資格を有する医師が多数在籍しています（消化器科専門医8名、肝臓科専門医8名、内視鏡専門医6名、超音波専門医2名：重複あり）ので、専門知識を駆使して診断と治療をしています。

肝炎・肝がんについては、新薬開発治療に関わり、最先端の治療を行ない、東京都の肝疾患連携拠点病院に指定されています。これまで治療してきたC型肝炎の治療数は約4500、肝がんの患者数は約3000人で、それぞれ国内有数です。C型肝炎ウイルスに対する効果が極めて高い薬剤が登場しましたが、使いこなす工夫が大事です。当院ではウイルスの状態や患者さんの体質・病状の状態に応じたきめ細かい治療を行って成功率は98%以上です。肝がんの「ラジオ波治療」は、体の表面から針を刺して熱で肝がんを焼き切る治療ですが、局所麻酔で傷は3mm程度、当日から食事や歩行も可能で術後5日で退院できます。ラジオ波治療ができない患者さんでは外科での肝切除を選択し、また手術不能な肝がんでは増殖を分子レベルで狙って阻害する分子標的療法を行なっています。さらに放射線科と協力したカテーテルを使った血管内治療や高精度放射線治療なども含めた総合的な肝がん治療を行っています。

食道がん・胃がん・大腸がんの内視鏡を使ったおなかを切らない治療にも力を入れています。早期がんに対する「内視鏡的粘膜下層剥離術」は、内視鏡の先端から出した特殊な電気で、わずかに数ミリメートルしかない粘膜を丹念にはがしてがんを切り取る技術です。いまで累計で1000人以上を治療してきました。当院独自の工夫と経験の蓄積により合併症も極めて少なく、患者さんにご好評です。内視鏡治療ができないがんや、手術ができない胆嚢や膵臓のがんに対しては、腫瘍内科と協力して抗がん剤治療を行っています。

当院は地域がん診療拠点病院に指定されており、消化器科ではあきらめない総合的ながん治療と、「がん看護外来」や緩和治療チームと協力した患者さんに寄り添うチーム医療を目指しています。



消化器科スタッフ